

2025年問題について問う

質問 本格的な超高齢社会に対応するため、国では、

地域包括ケアシステムの構築を急いでいます。これは、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、介護、医療、予防、生活支援などのサービスを一体的に提供するシステムです。本市の取り組み状況について、

お聞きます。

河野 哲雄 議員

答 地域包括ケアシステムでは、地域包括支援センターが中核機関となりまして、区長協議会、民生児童委員、医療、介護事業関係などとの連携が重要になることから、地域ケア会議が大きな役割を果たしていくものと考えております。本

市では、平成24年9月に地域包括ケア会議を立ち上げ、全体会議と個別ケア会議に分けて現在議論を重ねております。全体会議では、地域包括ケア体制を推進していくための地域ニーズや地域ボランティア、民間事業所などの社会資源の把握、見守りなどの生活支援サービスの調整、他職種との連携や情報の共有などを行っております。個別ケア会議では、3か所の地域包括支援センターが日常生活圏域

ごとくに会議を開催し、在宅で生活を送ることが困難な方などの個別事例を検討し、全体会議との連携を図りながら、地域包括ケアシステムの構築に向けての基礎づくりを行っております。

質問 当局は、超高齢社会に対応する地域づくりについてどのように考えているのか。また、区長制度を活かした地域協議会設置の必要性についての考えをお聞きます。

答 地域の方々に地域コミュニティの必要性を理解していただき、多くの方が自発的に地域活動に参加するよう、その活動を活性化させることが重要であると考えます。そのためには、まず地域の実情に応じて自治組織の活性化や地域活動への支援を行うことが効果的であると考えております。いろいろな観点から地域の仕組みづくりを模索しつつ、地域協議会の設置につきましても今後十分検討してまいりたいと考えております。

館林邑楽の

地域医療対策について

町井 猛 議員

市内の小児科、産婦人科医療の現状について

質問 少子化と言われてここ数年たっていますが、本市における小児科医院、産婦人科医院の数についてお尋ねします。また、平成25年度中に誕生されましたお子様の人数についても、お伺いします。

答 市内には、6病院と43診療所の49か所の医療機関がございます。診療科目で小児科を標榜している医療機関は15か所で、そのうち小児科の専門医療機関は4か所ございます。また、産婦人科を標榜している医療機関は4か所ございます。産科につきましては、出

産が可能ない医療機関は、現在1か所となっております。参考までに、館林市邑楽郡医師会の1市5町管内での小児科、産婦人科医院の状況につきましては、小児科を標榜されている医療機関は30か所、産婦人科標榜の医療機関は6か所、そのうち出産ができる産婦人科医院は市内の1か所のみでございます。次に、平成25年中の出生数は、548人となっております。主な出生医療機関は、県内が6か所、

県外9か所でございます。

質問 市内羽附町にありま

す病院が、救急医療体制を中心に関合病院を考えているとのことについて、市民や、特に、邑楽郡東部の町民など、一日も早い開業を願っているという話ですが、現在の状況及び市当局の考えについてお尋ねします。

答 現在、複数の民間病院で新築移転等の考えがあるとのことはお話に聞いておりますが、正式な相談

は受けておりません。民間病院の新築移転等の申請につきましては、県の医務課が窓口となっております。既存と同じ病床数で新築移転するということであれば問題はないと伺っております。

今後も館林厚生病院の機能の充実のもとより、連携を強化することにより、地域医療体制の充実を図ってまいります。

要望 市民が安心して暮らせるよう地域医療を守ってほしい。